古記錄は昔時火災に罹つて燒失した殘りに過ぎないといふ事であるが尙ほ德川時代の初期以來のもの多數有つて譽田八幡宮の神事神役　社人社僧等に關する貴重なる研究資料を學界に提供し、殊に朱印社領、社家の古格等に就ての社人と社僧との紛爭に關するものは當時の神社の狀況を知る上に少からず參考となるものである。（菊版假綴六三〇頁、圖版十六頁、京都菅居正治氏發行、非賣品）〔以上松野〕

◎開國文化　大阪朝日新聞社編

今我々の時代は世界と共にある時代である。我々は日本人であると共に世界人である。ロシヤの革命とアメリカの資本主義が直に我々の問題となつてくる。我々はいかにしてかゝる關係に入りこんだのであらうか。開國といふ言葉がその原因を—或は手續を說明する。この言葉によつて意味された現象は恐らく我國に特有なものであつたかも知らない。我々はそこに示される日本歷史の特殊な姿に一種の微笑すらもなげたくなる。こもあれ開國によつて現代日本の形が豫定されたことが明かであることは聽てこの現象の理解が現代日本の理解への基礎的な手引となるであらう事を思はせる。朝日新聞社がさきに開國文化展覽會を開催し併せてこれに關する講演會を開いた理由も一はそこにあつたのであらう。その各講演が集められてこゝに再び世間によびかけて居る。一々の內容を紹介する暇はないが讀者はその中に政治經濟宗敎藝術等諸般の姿に於ける開國文化の形相を見得るだらう。只こゝに用ひられた開國の語義は單に幕末維新の時期に限るものではなく、寧ろ近世初期泰西文化の波濤がこの島國日本の岸を濯ふに至つた時代以後を含めて居ることを注意して置きたい。（菊判四七七頁、價二・〇〇、大阪朝日新聞社發行）〔肥後〕

◎江戶時代之書目　杉浦丘園著

雲泉山莊主人杉浦丘園氏は人も知る如く京都の好古家である。この度その所藏に係る江戶時代の書籍目錄の各種を網羅して更にその目錄を作り雲泉莊山誌卷之二として世に問はれたものが本書である。收むるところ版本書籍目錄八十一部寫本書籍目錄五十二部に及び各解題を附

し且つ附錄として明治以降の書籍目錄三百八十五部の名を擧げなほそれらの中三十三部を選んでコロタイプ版に附し各の體裁を示して居る。眞に好古家でなければ出來ない仕事であり、蒐集の苦心に至つては蓋し第三者の窺窺を許さゞるものがあらうと思ふ。卷頭の雜感も興趣甚だ豐である。その中に元祿には六百七十七種の俳書が出て居て俳書出版の絕頂を示して居るといへる如きこれらの目錄の中にもその時代の動きが看取される樣である。近來古書に對する趣味が漸く興つてそれに關する專門の雜誌すら數種出て居る位でありこの著も一はそうした機運に促がされて世に出たものであるかも知れないが企ては正しく成功し著者の勞を充分に償つて居る。余輩は世の好古家がこれに倣つて續々その收藏を公開せられん事を希望する次第である。(和裝菊判一〇二頁、圖版十六葉非賣品、京都杉浦丘園發行)〔肥後〕

◉朝鮮支那文化の研究

京城帝國大學法文學會編

本書は京城帝國大學法文學會第二部論纂第一輯として發行されたもので、今西龍教授の「洌水考」を初めとして小倉進平氏の「西洋人によつて蒐集せられた早い時代の朝鮮語彙」小田省吾氏の「李子朝鮮時代に於ける倭館の變遷就中絕影島倭館に就て」高橋亨氏の「李朝儒學史に於ける主理派主氣派の發達」藤塚鄰氏の「李朝の學人と乾隆文化」加藤常賢氏の「舅姑甥稱謂考」玉井是博氏の「唐の賤民制度とその由來」鳥山喜一氏の「猛安謀克と金の國勢」幸島驍氏の「金聖歎の生涯とその文藝批評」の九篇が收められてゐる。先づ「洌水考」には列水が大同江である事を論證し、附論として列、樂浪は先秦時代に大同江を中心にして在つた朝鮮國內の地名水名であり、又樂浪郡治の所在地は王險城卽ち今の江北の平壤地方であつたであらうと述べ「西洋人によつて蒐集せられた早い時代の朝鮮語彙」は之を三期卽ち Witsen, Broughton, Hall 時代 Klaproth 時代 Siebold, Medhurst 時代 に分ちて、當時の歐洲語學界の狀況と、古い時代の朝鮮語の姿を觀察し、「李氏朝鮮時代に於ける倭館の變遷」は之を三浦倭館、薺浦倭館、富山浦倭館、絕影島倭館、豆毛浦倭館、